

第2回庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会の報告

「第2回庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会※」（8/8 10:00～12:00 中央公民館7Fホール）において、「市議会庁舎整備に関する特別委員会」（6/9）での審議内容、経済界等からのまちづくりに関する意見、専門分科会での検討状況等について報告し、ご議論いただいた。

※当日の資料については参考資料1を参照。

■議論の要旨

1 市議会庁舎整備に関する特別委員会（6/9）での審議内容について

- 基本計画の検討を進めるうえで重要となることから、本庁舎と中央区役所を「分棟」とすることについて、検討委員会としての意見を確認した。
- 各委員からは、景観、回遊性、防災上の役割、区独自の発展等といった観点を考慮すると、総じて「分棟」の方がよいという意見であった。

<主なご意見>

- ・新庁舎整備にあたっては、景観への配慮も重要である。なお、景観計画の改定にあたっては、天守閣や桜町の広場からだけでなく、周辺の色々な視点場からどうみえるかを重視している。まちなかを回遊する中で、どう熊本城がみえるかは大事であり、桜町花畑周辺地区における「熊本城と庭づき」というコンセプトに合致した、全体としてまとまりのある考え方がよいのではないかと考えている。
- ・市民からは利用スペースが期待されているが、こういう点からも合築で1か所になるのではなく、分棟で分散されることは意義深い。それが、ひいては回遊性や賑わいにつながるのではないかと考えている。市民に開かれた、あるいは賑わいがあるということ自体が、あらたなシンボルとなるのではないかと考えている。
- ・政令市になり、各区独自の発展が大事。合築にすると、市役所イコール中央区役所という印象が残ってしまうので、逆に分離した方が区役所としての独自性が育つ。まちの拠点が別にあるという意味で都市経営という面からも分離した方が先々に有効だと思う。
- ・災害対応は実際、様々な応援機関と一緒に取り組むこととなる。そのような中、区役所には、被災者の対応、本庁舎は、しっかりと司令塔としての機能を果たしてほしい。合築の場合、被災者支援で混乱する中、そこで、司令塔の機能も果たさないといけない。そういった意味でも分棟が好ましく、区役所は被災者へ寄り添った対応をするべき。

2 新庁舎整備について

- 新庁舎の基本計画については、「新庁舎整備基本計画検討分科会」において専門的かつ集中的に検討を進め、分科会である程度とりまとめた内容を検討委員会に報告することを確認。

<主なご意見>

- ・今年度、基本計画をとりまとめるスケジュールとなっているが、かなりタイトであるため、新庁舎整備基本計画検討分科会において、地域の意見なども汲み取りながら、詰めた議論を先行して進めていただき、それを受けて、また検討委員会で議論するという進め方としたい。
- ・どのようなまちであるべきかといった今後のまちづくりのコンセプトを踏まえた上で、庁舎のコンセプト設定が必要。
- ・新庁舎等の市民利用スペースについては、様々な主体と一緒に取り組まないと立ち行かなくなる。市民を、お客さんではなく、一緒にまちづくりをやっていくパートナーとして考えていくことが大事。

■議論の要旨（つづき）

3 経済界及び中心商店街からの意見について

- 熊本経済同友会、熊本商工会議所、中心商店街等連合協議会でとりまとめた意見について各団体の委員から報告。
- 熊本城～桜町～商店街などの回遊性向上による賑わい創出の重要性や、現庁舎敷地のポテンシャルを踏まえた跡地利活用がまち全体の浮揚につながるよう検討していくべき、といった内容を共有。

<主なご意見>

【熊本経済同友会】

- ・新庁舎整備に伴うまちづくりに関しては、熊本城から商店街への人の流れ、周遊することによる賑わいの創出を期待。
- ・中心市街地へ5つ星ホテルを誘致、エンターテインメントなど「体験」「感動」を生むまちづくりが必要。
- ・駅近・まちなかのアクセスのよい立地へのアリーナ、スタジアムを誘致してほしい。
- ・経済界・行政の連携が不可欠。

【熊本商工会議所】

- ・新庁舎の最上階については、夜間を含めて市民や観光客に広く開放すること等の創意工夫により、新たな観光資源として活かしてほしい。
- ・新庁舎、中央区役所と中心商店街のアクセス向上は重要な課題であり、移転前から早急な対策が講じられるべき。
- ・現庁舎跡地については、立地を最大限に活用し、中心市街地全体に経済効果を波及させる必要がある。跡地利活用の指針を早急に定め、共有することで事業者の不安の解消に繋がる。
- ・跡地にはシンボリックなもの、夜のエンターテインメントの充実、グレードの高いホテル、パブリックビューイング、上通、水道町への回遊性を高める開発が必要。

【中心商店街等連合協議会】

- ・現庁舎跡地の利活用については、ホテルは上層階、最上階は展望施設、低層部はショッピングモールと飲食店、しかしショッピングは必要最低限。アリーナも必要という意見もあるが、使わないときは賑わうことがない。なるべく、建物だけで完結させないこと。
- ・中心部からは県庁や合同庁舎が移転し、オフィス利用者が逃げていった。そのような中、庁舎がどこに移転するか興味があったが、わりと近いところにいったので安心はしている。桜町と中心市街地との回遊性が非常に大事。歩道橋で繋げ、エスカレーターで登り、2階レベルで御幸坂まで行ければ便利。
- ・地下でつなげることについては、熊本は地下水が出やすく、予算の問題もあるため難しいと思うが、核シェルターをつくる意味では有効。

■議論の要旨（つづき）

4 交通と歩行者の回遊について

○今後、新庁舎整備や周辺のまちづくりを進めるにあたっては、周辺交通への影響も踏まえながら、駐車場の在り方や、歩行者回遊と公共交通の連携等についても重視しながら検討を進めることを共有。

<主なご意見>

- ・新庁舎建設予定地の北側の県道はバス路線であり、どこに出入口をつくるのか、辛島地下駐車場はどう使うのか等、駐車場の在り方は大変重要な視点。
- ・今後、公共交通での来街を目指す以上は、駐車場の場所や量についても、車で来庁される方の抑制、又は離れた場所に駐車させるといったことも考えていく必要がある。
- ・桜町のバスターミナルと新庁舎・区役所へのアクセス、現庁舎跡地へのアクセス、商店街へのアクセスが大事。平面利用はもちろん、ペDESTリアンデッキや地下道等、様々な手法も含め検討していくべき。
- ・空間の在り方として“自動車”から“人”へということは示してあるが、つなぐ部分が弱い。ウォーカブルの推進にあたっては、公共交通で支えていくという観点も大事。

5 様々な主体と意見やアイデアを交わす場について ※詳細は資料2で説明

○現庁舎跡地や周辺のまちづくりについて、市民、民間事業者、地元経済界など様々な主体と意見やアイデアを交わす場を設けることについて確認。

<主なご意見>

- ・現庁舎跡地の利活用を含め、周辺のまちづくりについては、市民、地元経済界、民間事業者、それぞれの視点からの意見や想いがある。今後は、各主体が、一堂に会して、議論を積み上げていくような場が必要。

その他

<主なご意見>

- ・今後のまちづくりに関しては、熊本と置き換えられる規模の都市の調査研究も必要。
- ・環境配慮型、循環型のまちづくりという視点も大事。